


派遣報告書

平成24年 4月 3日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員

梶島和江 

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 派遣期間 平成24年 3月26日 (月) から平成24年 3月28日 (水) まで
- 2 派遣先 宍倉市 (株) 百姓隊 大塚竹田市
- 3 視察 (調査) 議員名 金光隆、福谷直憲、梶島和江、中野隆
- 4 面会者 百姓隊代表取締役 石川寛俊氏、竹田市議会事務局長 佐田亨氏 他別紙
〃 梶島和江 代表取締役 矢野敦子氏
- 5 派遣目的 本市の6次産業の可能性を探り、農業振興の為の事例を学ぶ
- 6 視察の経過及び感想
別紙、報告書の通り。
1. 農業と消費者を直接結ぶ若くは農業力を
本市での実践に活かす。その可能性は
充分ありと思う。
2. 竹田市は先人の教を地方自治の目標
としている事に感服。
「農村への帰れとハハシ 友あり」立松和洋
- 7 添付書類 (株) 百姓隊 ハレフレ外
(1)
(2) 竹田市農村回帰支援センターの取組

要した経費： 4 人合計 142,480 円

会派視察報告書

平成24年3月31日

日時 平成24年3月26日、27日、28日、
目的地 宮崎市 株式会社 百姓隊 視察
竹田市 竹田市視察「全国初の農村回帰宣言市」
参加者 金光 隆、福谷 直美、梓島 和江、中野 隆、 4名

行路 市役所——岡山（高速バス）往復
岡山——小倉——大分——宮崎(泊)——豊後竹田(泊)
JR往復

目的 本市の6次産業の可能性を探る
本市の農業振興の参考のため2つの事例を学ぶ

3月27日 午前9時30分から 12時まで
株式会社百姓隊視察 「6次産業の取り組みについて」
説明 代表取締役 谷口 寛俊 氏
農産加工部 矢野 敦子 氏

百姓隊は、宮崎市内で野菜の生産から加工、直売まで一貫して行っている農業生産法人です。20代の若いスタッフが中心となり、地どれ野菜から宮崎伝統野菜、農業加工品などを生産、販売しています。宮崎県内25名のメンバーが育てた農産物も一緒に販売しています。

農協に頼らないで、大手スーパー、デパート、コンビニに直売所、販売コーナーを設けて消費者に生産者の意思を伝えたいと取り組まれている姿に心打たれるものがある。

東京に宮崎アンテナショップがあるので、出店の声掛けもあるが、スペースが狭い、直売のほうが手数料が節減できるので今は出していない。

インターネット販売は垣根がない。注文は無限大にひろがる。クレジット清算で回収は安心。その他代引きで発送している。

地元で販売するのは6割程度であとはインターネットによる通販が4割を占める。主に関東地方であり、消費者に農業者の思いを直接届けている。

行政にひとこと、売り場スペースを公で確保してほしい。直営コーナーを設けてほしい。(販売部門の確保)

補助金の丸投げ、同じ者に重ねて助成するのは如何なものか。

3月28日 午前9時から11時まで

竹田市議会事務局 局長 佐田 亨 氏

同上 庶務係 武内 公司氏

企画情報課 農村回帰推進室 室長 後藤 芳彦氏

同上 係長 志賀 郁夫氏

市役所玄関には、9時前到着。佐田局長の出迎えを受け心から感謝した次第である。さっそく議会会議場に案内された。合併後に新しく模様替えされた議場には対面式の階段状議席が設けられている。固定されたテレビカメラが対角線2個設置。ペーじユの床面が温もりある議会の雰囲気醸し出している。

議会については別紙案内の通り

全国初の農村回帰宣言市について

人口約24,000人の竹田市は周りが山に囲まれた自然豊かな盆地で清らかな伏流水に恵まれている。関金か三朝を想像するような景色である。中央の小高い城跡は、荒城の月を作曲した滝廉太郎の幼い日の思い出の岡城跡である、滝廉太郎の銅像が街を見下ろしている。栄枯盛衰竹田市将来の発展は農村回帰推進室に委ねられているとって過言ではない、と思う。

担当者の熱意は必ず通じている。

過疎化。高齢化。空家バンクの解消に地域と行政が一体化して取り組んだ農村回帰宣言は、都会で暮らす子育て世代の夢を実現できる街として、竹田市を選択肢に加えられよう懸命な努力を続けておられる。子育て支援。通学に便利な地域へ公営住宅を建設。農地の耕作つき空家の相談など、都市から安心して移住のできるワンストップ相談ができる仕組みがとられている。空家の所有者に年間10万円の補助金が計上されていることは驚きでもあるが、維持改修には当然の経費で市独自の予算である。

「農村回帰サポーター」の設置、インターネットによる情報提供などで、多くのアクセスがあり、担当者が出かけて面会することもある。

全国に先駆けて打ち出した政策は緒に就いたばかりであるが、担当者の熱い思いが必ず実を結ぶことをねがっている。人口の減少傾向はいつでも同じ小学校の再編も検討されていて、若者定住の努力は並大抵の考えでは成就しない。最終的には人と人との信頼による。その一言が印象的である。

詳細は、パンフレット添付

以上